



見慣れた場所に、知られぬ歴史が

ぶらり飯南探訪

まちのあちらこちらに残る史跡や文化財。その価値や語り継がれた物語に触れた時、このまちの新たな一面が見えてくるのではないのでしょうか。奥深き文化財の数々を紹介します。

大切に守られてきたご神体

赤穴八幡宮(赤名)のご神体の一つである「玉依姫立像」。足元には、導きの神である八咫鳥と思われる木像を2体従えていました。これらがどのような経緯で製作され、祀られたのか、確かな資料は残っていません。しかし、赤穴八幡宮には玉依姫が登場する「丹塗箭神話」や、神話にまつわる遺構が残されており、玉依姫が古くから人々に崇敬されていたことがうかがえます。千年以上前に製作された玉依姫立像を、赤穴八幡宮では代々大切に継承してきました。経年により腐食が進むこの像を、後世に残したいと、今年3月には県立古代出雲歴史博物館に寄託。保存処理が施され、その姿は、次の千年へと受け継がれます。

裏山から出土した1万5000枚の古銭

平成30年4月、谷地区の民家の裏山から、壺に入った約1万5000枚の古銭が発見されました。

出土した約60種の古銭のうち、特に枚数が多かったのが中国の宋(960〜1279年)で製造された「祥符元寶」と「祥符通寶」。日宋貿易により輸入され、経済活動に重要な役割を果たした銭貨です。

出土した状況から、この2種の銭貨を意図的に選んで埋藏したと推測されます。このような意図がうかがえる古銭の出土事例は、全国でも初のことであり注目を集めています。

大量の銭貨を蓄えることができたのは、どんな人物だったのか。戦乱への備え、呪術、商い―一体何の目的で銭貨を埋めたのか。偶然発見された古銭から、先人たちの暮らしに思いを巡らすことができます。

町教育委員会では、出土した古銭の詳細調査を実施中で、今年度、中間報告会を開き、調査経過をみなさんにご紹介する予定です。



15~16世紀のベトナムで製造された銭貨も出土

未だ謎多き山城

14世紀後半に衣掛山に築かれ、今も勇壮な姿を残す「瀬戸山城跡(赤名)」。数々の文献資料により、築城の経緯や、城を巡る激しい攻防の様子が今に伝えられています。

瀬戸山城を知る上で欠かせないのが石垣。山頂に築かれた石垣には、くさびを差し込んで石を削った跡である「矢穴」が残っています。この矢穴の形状等から、瀬戸山城の石垣は、「関ヶ原の戦い(1600年)」以降に形成されたのではという見解も。

瀬戸山城は、石垣調査、城の機能分析など未調査の領域も。今後、町教育委員会は石垣の図面化などの調査を行い、瀬戸山城跡の町指定文化財登録を目指します。



敷石や石垣が残存し、城門があったとされる本丸付近



本丸南側に残る石垣

私たちは、どんなまちを残したいか

まちに残る文化財や史跡からは、この地域の成り立ちや、過去の人々の暮らしの様子がうかがえます。先人たちは何を大切に、どんなまちを築きたかったのでしょうか。そして私たちは、どんなまちを築いていくのでしょうか。

もう一度、この地をじっくり味わいに、ぶらり飯南探訪に出かけてみてはいかがでしょうか。

古文書の情報提供を お願いします

地域の歴史を解明するのに、重要な役割を果たすのが「古文書」。町教育委員会では、地域に伝わる古文書の保護・調査に取り組んでいます。

江戸時代より前の古文書をお持ちの方は、情報提供をお願いします。

問合せ

教育委員会 76・3944

クイズ これ、なんんだ？

あなたはいくつ知っていますか？

見慣れたまちの中に潜む、先人たちの暮らしの痕跡。後世に残し、伝えなかったこと。あなたはいくつ知っていますか？

9 左ハ石州さげ谷 右ハとん原



5 100年以上前の外国製



1 全国でも珍しい形の狛犬



10 子どもの夜尿症にご利益あり



6 街道を見下ろす戦国時代の砦跡



2 平家随一の猛将の子孫



11 美しい明治時代の石橋



7 主君への忠義を貫いた戦国武将



3 古い赤名の町がよみがえる



12 鎌倉時代の神像で国指定文化財



8 常識を覆した謎の土偶



4 巨石を支える守り神



●クイズの答えは13ページに掲載しています。



クイズに登場した史跡等の詳しい解説は、ホームページをご覧ください。